

## 「2006年夏限定・神岡鉄道に乗ろう」

波田野 正佳

この旅行は今年12月に廃止される神岡鉄道と4月に開通した富山ライトレールに乗る旅行です。私が行く旅行では、初めて富山を中心とするものでした。

### 【8月4日（金曜日）】

新 宿 23:59 ~ ( 快速ムーンライト信州83号 信濃大町行き ) ~

私が新宿駅に着いたのは午後10時30分で、集合時刻よりも30分も早い時刻だった。ここに来るまでもたくさんのひとが電車を利用していった。乗ってくる人数も昼と変わらなかったが、雰囲気は昼の堅苦しいものではなかった。夜の新宿駅はあいかわらず混んでいた。新宿駅といえば日本でもっとも乗降客の多い駅だ。この人足はいつまで続くのだろうか。夜の新宿駅を見ながら集合時刻の午後11時を待った。

旅行に参加する部員が無事に集まり、今日は予定の列車に乗るだけとなった。しかし、先行列車が遅れている。結局、先行列車は30分以上遅れ、新宿に着いた。その影響で予定の列車も遅れ、新宿のホームを出たときには日付が変わっていた。

### 【8月5日（土曜日）】

~ ( 快速ムーンライト信州83号 信濃大町行き ) ~ 信濃大町 05:29

旅行は早くも2日目。車内でも部員は話をしたり、音楽を聞いたりして時間をつぶしていた。私は持参した携帯ラジオを聴こうとしたが、まったく聞こえなかった。常識的に考えればつくはずもなかった。都会の車窓から見えるのは不気味に光るネオンだった。中途半端なあかりが線路を照らしていた。ゆっくりゆっくりと列車は走ってゆく。いつしか私たちは郊外の住宅地の中を走っていた。深夜ということではほとんどの家の明かりは落ちていた。その中で点々と明かりのついている家があった。そのあかりはひとつでだけで、なんかおいてかかれてしまったのか、まだひとりでがんばっているのかと思うとあの小さなあかりもとてもたくましく思える。また、街灯の照らしているちいさなあかりもきれいに直線や曲線を描き、一晩中役目を果たしていた。新宿を出てどのくらい経ったのか。列車は、がたんごとんと規則的なリズムを刻みながら山に入った。車窓には、ちいさなあかり以外には何も見えない閑散とした風景が広がっていた。私はもう寝ようと思うと急に冷房の寒さに襲われた。これはたまらないと思って、客室から出るとそこには夏の暑さがあった。でも、私にとってでは心地よいものだった。しばらくはデッキにいよう。冷房の温度はそんなに低くないのに。富士見駅でしばらく止まるらしい。外に出ようか。列車は暗闇から突然現れた富士見駅に停車した。

富士見駅は長野県諏訪郡富士見町にある駅だ。都会と違ってとても涼しく過ごしやすかった。駅名板に所在地が書いてあったが、もうだいぶ遠くに来たなと感じた。所在地がわかっても、私は東京に帰る自信がない。時刻は午前3時30分。駅の先端は照明でかろうじてすがたを見せているが、その先では信号以外はまったく見えない。真っ暗な山中に姿を見せているこの駅がすごく不思議な空間に思えた。列車は出発時間になり富士見駅を出た。ちなみに、富士見駅は中央本線の各駅の中で最も高いところに位置する駅で、周辺に集落がある。真っ暗でまったく気づかなかったな。

座席に着くと徐々に眠くなり、うとうとし始めた。でも、この感覚は眠っているという感覚ではなかった。まだ意識はあるし、記憶もうっすらとだがある。夜行列車で睡眠といえどもこういうものだ。深い眠りと浅い眠りを繰り返し、時間はどんどん過ぎていった。富士見駅を出て1時間後、塩尻駅停車中についにあの光景が。どこを見回しても真っ暗でまちの広告だけが光っていた。外で涼んでいるとさっきまで正面もまったく見えなかったであったが、空の色は闇から群青へとかわっていった。うたたねから醒めて、ぼーっとしている私には、まだ状況がつかめなかった。空を見返すと群青色だった空はいつのまにか明るさが増してなんといえない明るい青になっていた。短時間での出来事にただ立ち尽くすだけだった。山の連なりから赤い光が漏れ、いよいよ長かった夜の旅も終わりを告げようとしていた。あんなに長かった夜が、たった数分で明けてしまった。太陽が山を越えた。あつという間だった。ああ、長かったな、でも、もう朝か。私たちは、美しい日の出を見届け、塩尻駅を後にした。



ムーンライト信州83号 189系



中央本線 富士見駅

**【8月5日（土曜日）】**

信濃大町 06:09 ~ ( 大糸線 普通 南小谷行き ) ~ 07:11 南小谷

夜明けから1時間、信濃大町に到着した。私たちは、5時間半でいつもの世界とは別の世界に来てしまった感じだ。信濃大町駅は、ちょっと寒かった。まずは、朝食と思って店を探すと駅の売店がやっていた。こんな早朝からごろうさん。でも、朝食らしいものはちょっとだけだった。じゃあ、自動販売機のコーンスープで。今日はじめて乗るのは、大糸線南小谷行き、2両編成だ。車内は午前6時には、席がうまっていた。列車は動き始め、信濃大町を出た。

駅を出てから広がるのは鮮やかな緑と小さな民家、そして、大きな山の連なりだ。列車はひたすらレールの上を進む。朝の静けさか、まったく静かだ。湖が見えてきた。そこで、私は今までに見たことのない風景を見た。湖の真上に雲がかかっていた。それも、きれいに。都会で

は、まったく見たことのない風景の連続にただ驚くだけだった。その湖から流れる川をたどっていくと南小谷に到着だ。



大糸線 E127系 100番台



大糸線の車窓 1



大糸線の車窓 2

【8月5日（土曜日）】

南小谷 07:55 ~ (大糸線 普通 糸魚川行き) ~ 08:48 糸魚川  
糸魚川 08:48 ~ (北陸本線 普通 富山行き) ~ 10:07 富山

この駅に到着して気づいたのだが、南小谷の読みは「みなみおたり」だ。首都圏外の駅名は、私にとって読みづらいものだった。次の乗る列車はすでに隣のホームに到着していた。1両でオレンジ色のディーゼル車だった。夏休み中ということもあってたくさん人が乗っていた。おそらく、大糸線に乗るだけに来た人が大半だろう。地元の人だけではこんなに混まないからだ。終着駅の糸魚川まで誰も降りそうもない。この列車を見ての率直な感想は、今度はこれに乗るのか。さまざまな不安があった。南小谷駅の周辺は民家や施設などがあつたが、この時間帯に朝食を食べられそうな店はなかった。あきらめて列車に乗って出発を待つことにした。手動の固いドアを開けると、車内は予想以上に居づらかった。南小谷から糸魚川まで53分、ひとごみで風景はほとんど見えず、ひたすら耐えるだけだった。

糸魚川に着くとあの列車から開放されるという安堵で気が楽になった。また、もっとすいていたらなあという願望もあつた。糸魚川での乗り換え時間は6分と短いので、すぐに乗り換えた。糸魚川から富山まで疲れて眠ってしまった気がする。旅行記を書いている自分にまったくそのときの記憶がないのだ。



大糸線 キハ52系



南小谷 (みなみおたり)



北陸本線 475系

【8月5日（土曜日）】

富山 10:31 ~ (高山本線 普通 猪谷行き) ~ 11:15 猪谷  
猪谷 11:26 ~ (神岡鉄道 奥飛騨温泉口行き) ~ 11:57 奥飛騨温泉口

自由時間

奥飛騨温泉口 14:18 ~ (神岡鉄道 猪谷行き) ~ 14:48 猪谷  
猪谷 10:31 ~ (高山本線 普通 富山行き) ~ 11:15 富山

神岡鉄道に乗りに行く。神岡鉄道は猪谷～奥飛騨温泉口までの運行なので、高山本線で富山～猪谷間を高山本線で移動する必要がある。高山本線を降りるとJRと独立した私鉄のホームが見当たらない。しばらく見回すと別の電車が止まっているホームがあった。神岡鉄道のホームはすぐそこだった。冒頭にも書いたが、神岡鉄道は今年の12月1日に廃止となる。今日が8月5日だから、残りは4ヶ月未満だ。廃止される路線に乗ることは貴重な体験になるが、廃止が決まったから乗りきたというのにもなにかおかしい。神岡鉄道に乗車すると、車内では乗り来ただけのひとだけでなく、家族連れの一もいた。この車両には囲炉裏があると予定表に書いてあったが、正直あまり信じてない。列車に囲炉裏なんて・・・ってあったよ。かなり目立ってる。乗車口のすぐ近くに。このアイデアはどうなのか。列車はゆっくりと走り始め。運転を見合わせている猪谷～角川間を横目に1両編成の列車が走ってゆく。トンネルをいくつも越えて、川を橋でわたり、山間の町を抜けてゆく。周りの風景は申し分なかった。周辺に住む人も使っているようだ。唯一、変わった風景の駅があった。神岡鉱山前である。停車中、車窓には神岡鉱山の労働者の宿舎らしきものがあった。でも、神岡鉱山にあるのは、茨城県のつくばからおくられてくるニュートリノを検出するスーパーカミオカンデだ。私は素粒子とか難しいことはわからない。何はともかく、鉱山としての機能は果たしてないのだ。神岡鉱山前を越えると奥飛騨温泉口まですぐだった。奥飛騨温泉口は真新しい駅だった。その駅でやっと富山駅で買ったきちんとした弁当を食べた。静かなご飯だった。食事を終えてから、残り2時間半どう過ごすか。みんなは、ゲーム持ってきて時間をつぶしている。廃止されたらレールがはずされて、駅舎が取り壊されて、跡形もなくなる。いままであった駅が跡形のなく、なくなってしまう。この風景はどう変わるのだろうか。とても感傷的になってしまった。この山の中に。私は駅舎の中の長いすに横たわって寝た。私が起こされるころにはもう出発時間直前だった。



高山本線 キハ120系



神岡鉄道 KM-100形



神岡鉄道の囲炉裏



奥飛騨温泉口駅 駅舎



奥飛騨温泉口駅 ホーム

【8月5日（土曜日）】（自由行動）

富山駅北 16:00 ~ ( 富山ライトレール 岩瀬浜行き ) ~ 16:24 岩瀬浜  
岩瀬浜 17:01 ~ ( 富山ライトレール 富山駅北行き ) ~ 17:25 富山駅北

奥飛騨温泉口から富山に戻った後、自由時間があった。私は、勧められた富山ライトレールに乗ることにした。富山ライトレールは今年の4月に開業した交通である。私はそれをテレビのニュースで1回見たことがあります。床が低く、デザインもシンプルである。私が乗った感想はとても静かであること。線路ははじめ路面にある路面電車のようなかたちで、それ以降はパラストの上の線路を走る。富山ライトレールにのって風景を見ていると、あちらこちらに鉄道の跡が見られた。それを見て思い出した。そうだ、これは富山港線だ。富山港線を使って、富山ライトレールは構成されているのだ。終点の岩瀬浜で、線路を見てみると新線にしては、さびている。いったいどういうことなのだろう。



富山ライトレール TLR0600形 TLR0601号

【8月5日（土曜日）】

富山 18:03 ~ ( 北陸本線 普通 金沢行き ) ~ 19:10 金沢  
金沢 19:18 ~ ( 北陸本線 普通 敦賀行き ) ~ 20:02 加賀温泉  
加賀温泉 20:06 ~ ( **L特急 雷鳥48号** 大阪行き ) ~ 21:05 敦賀  
敦賀 21:10 ~ ( 北陸本線 普通 長浜行き ) ~ 21:52 長浜  
長浜 22:01 ~ ( 北陸本線 **新快速** 大阪行き ) ~ 22:11 米原  
米原 22:33 ~ ( 東海道本線 普通 大垣行き ) ~ 23:04 大垣

富山駅は思ったよりもきれいだった。私は初めて富山に来ての発見だった。このあと北陸本線・東海道本線でひたすら大垣を目指す。しかし、その先で事故が起きてしまった。午後10

時01分に出た長浜行きの列車が、新疋田～近江塩津でイノシシをひいてしまったことで、列車が止まってしまった。このようなことはこのような地方ではよくあるらしい。数十分後に安全確認が済んで再出発した。さらに長浜に停車していた新快速電車が花火大会の帰りとぶつかりドアが開りにくくなるほどぎゅうぎゅう詰めだった。次の停車駅の名前を間違っ表示され誤って降りてしまう人もいた。かなり混乱していた。米原で降りるまでは気が抜けなかった。米原で部員全員が確認されたときは、ほっとした。どうやら無事に大垣につけそうだ。

【8月5日（土曜日）】

大 垣 23:19 ~ ( 快速ムーンライトながら 東京行き ) ~

ムーンライトながらはあの事故の影響かはわからないが遅れている。そのとき時計を見なかったの、どのくらい遅れているかは、覚えていない。でも、ムーンライトながらが出発したときは、いよいよ東京に戻れるのかと安心した。あとは、2回目連続の夜行列車に耐えられるかだ。普通電車で‘うたたね’を繰り返したくらいだからすぐ眠れると思ったが、浅い眠りと深い眠りを繰り返すだけだった。やっぱり熟睡は厳しかった。

【8月6日（日曜日）】

~ ( 快速ムーンライトながら 東京行き ) ~ 04:42 東京  
東京 04:58 ~ ( 中央線 各駅停車 高尾行き ) ~ 05:55 立川  
立川 06:04 ~ ( 青梅線 普通 青梅行き ) ~ 06:15 拝島  
拝島 06:23 ~ ( 八高線・川越線 普通 川越行き ) ~ 07:13 川越  
川越 07:14 ~ ( 川越線 快速 新木場行き ) ~ 07:36 大宮

結局、東京に着いたときはめちゃくちゃつらかった。ホームから連絡通路で中央線に乗り換えるとき、がらがらな東京駅を見た。早朝だから当たり前なのだが、異様な光景だった。乗りかえる中央線は早朝、総武・中央線の駅も止まる各駅停車だった。十分寝たが、どうしてもねむい。この眠気は異常だ。青梅線でも、八高線でも、川越線でも強い眠気のせいで乗り過ごしそうになった。



ひともまばらな東京駅

【8月6日（日曜日）】

大 宮 09:08 ~ ( 東北本線 普通 上野行き ) ~ 09:35 上野  
上 野 09:50 ~ ( 常磐線 普通 高萩行き ) ~ 11:46 友部  
友 部 11:54 ~ ( 水戸線 普通 小山行き ) ~ 12:54 小山

朝食を食べて眠気がちょっと覚めた。大宮も上野も行ったこともあるので、東京に帰ってきたなあという実感がより持てた感じがする。私が知らないのは、水戸線だった。友部を出て、次の駅を見たとき、驚いた。ものすごく簡素だった。しかも、Suica がつかえる。近郊路線図に乗っている地区でもこんな場所があるんだ。



常磐線 415系

【8月6日（日曜日）】

小山 13:50 ~ ( 両毛線 普通 高崎行き ) ~ 15:32 高崎  
高崎 15:49 ~ ( 上越線 普通 万座・鹿沢口行き ) ~ 16:14 渋川  
渋川 16:38 ~ ( 快速 EF58 奥根号 上野行き ) ~ 18:46 上野

関東は暑かった。小山の昼食は暑い外であたたかいそばだった。汗かいてしかたなかった。両毛線から見える景色は、どこまでも続く畑だ。さまざまな緑と家がどこまでも。帰ってきたという思いが、またこみ上げてきた。人もまばらだ。高崎駅に着くとそこにはたくさんの人がいたひとごみも懐かしい。たった1日離れただけで、懐かしく思えるのは不思議だ。そして、いよいよ最後に乗る快速 EF58 奥根号を乗りこえて渋川に到着。最後の列車、快速 EF58 奥根号が入線した。私が乗ったのは最後部の車両だった。列車が発発したあと、最後に何かしようとおもったが何もできなかった。上野駅について解散するとき IT 君が先に居なくなっているのに気づいて、最後まで一緒に居ろよと突っ込みたい気持ちでいっぱいでした。



上越線 115系



快速 EF 58 奥根号

完